

認知症とともに生きる社会づくり

高福
KANAGAWA



認知症オレンジ
パートナーネット
ワーク

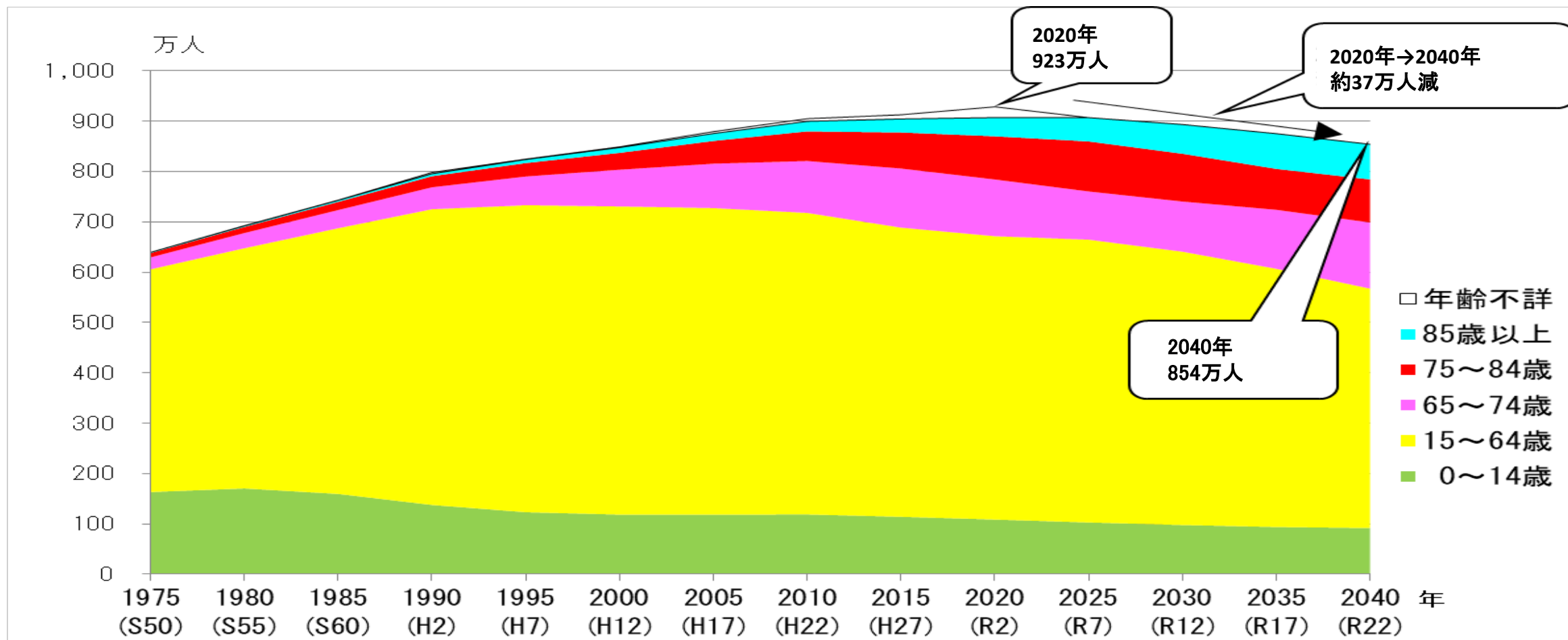


神奈川県高齢福祉課

1 県の高齢者と認知症の状況



神奈川県総人口の推移



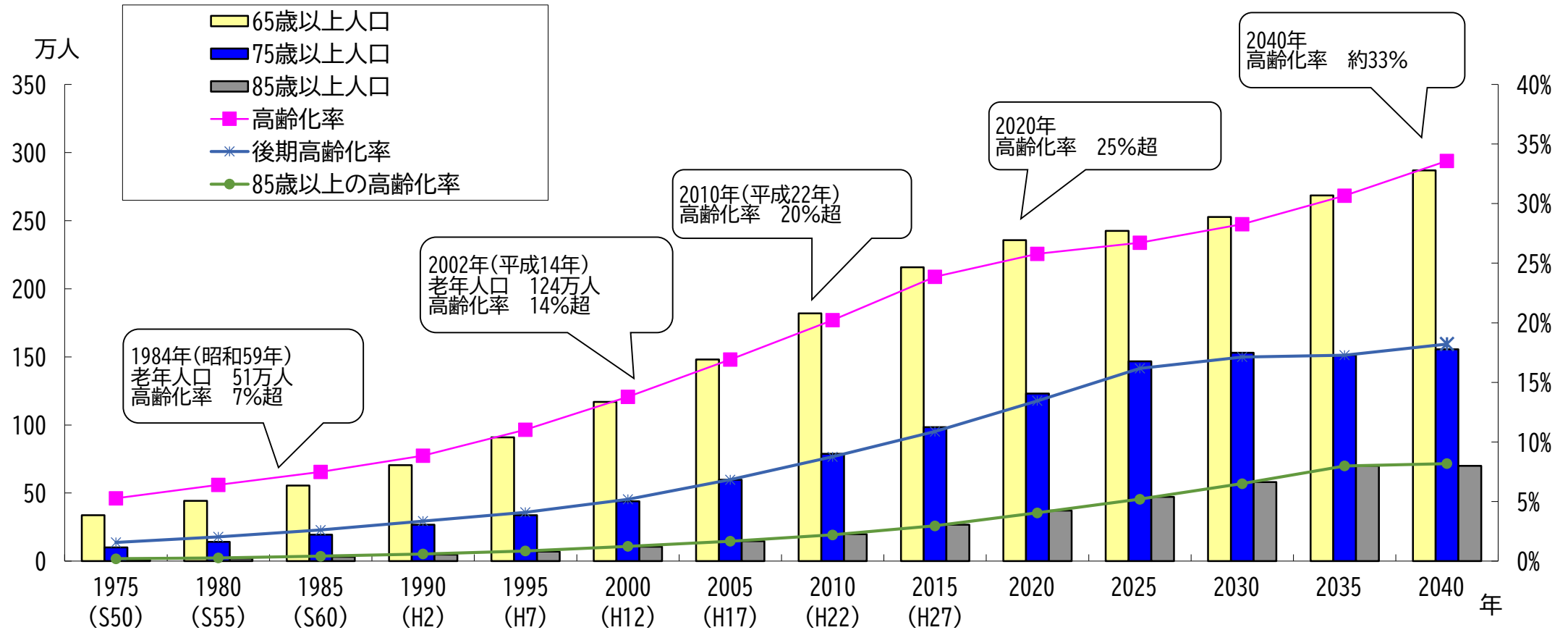
注1 2020(令和2)年までは、国勢調査による。

2 2025年以降は、国立社会保障・人口問題研究所による推計

神奈川県
認知症の人と家族を支えるマーク



神奈川県の高齢化率



出典：かながわ高齢者保健福祉計画（第9期R6～R8年度）
2020年までは国勢調査による 2025年以降は、国立社会保障・人口問題研究所による推計

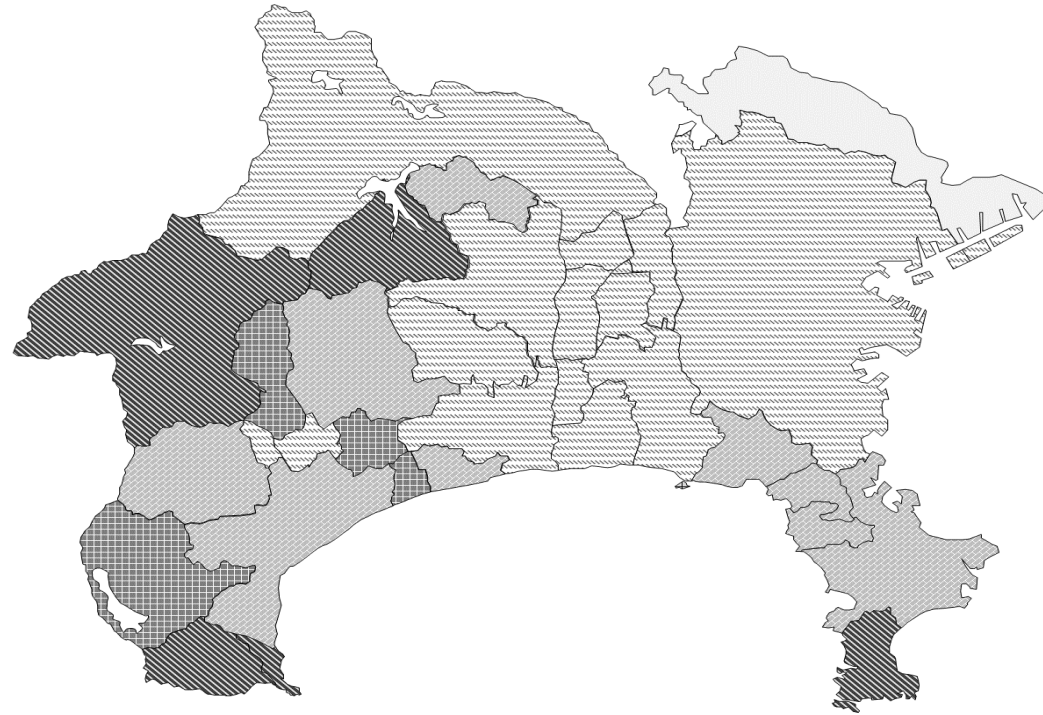
神奈川県
認知症の人と家族を支えるマーク



市町村別の高齢化率

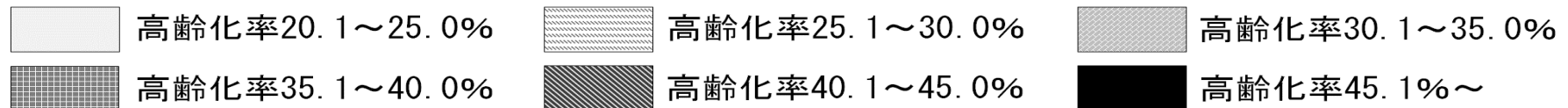
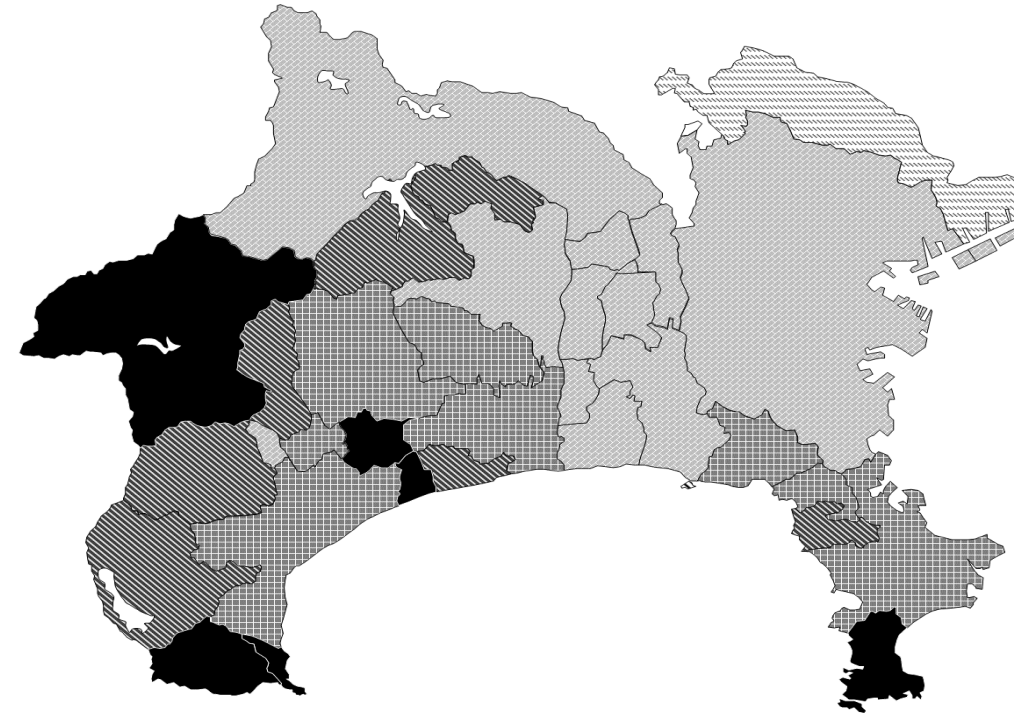
2020年度

25.6%



2040年度

32.9%

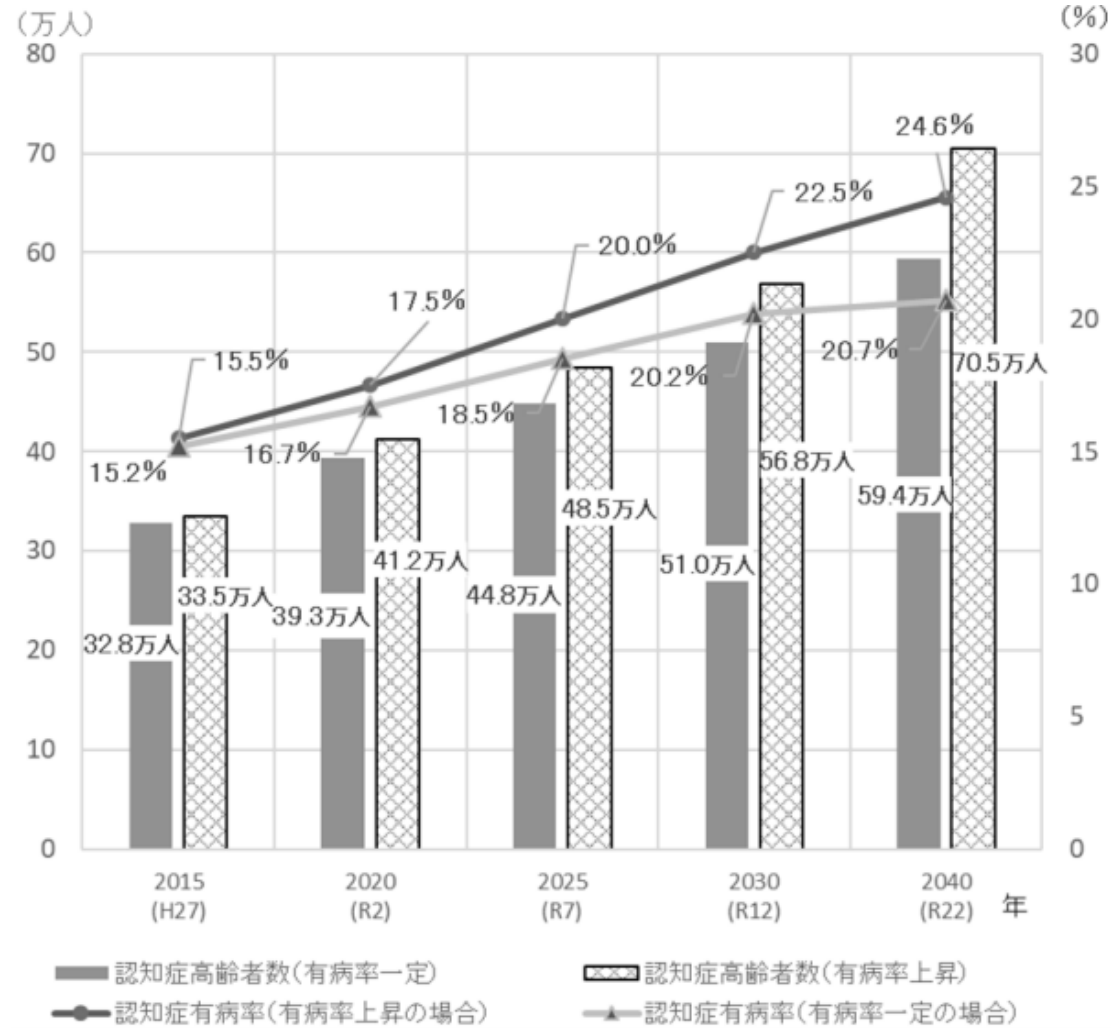


出典: かながわ高齢者保健福祉計画(第9期R6～8年度)

神奈川県
認知症の人と家族を支えるマーク



県内の認知症高齢者数の将来推計



(出典) 「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」(平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金 特別研究事業九州大学二宮教授)と国勢調査および国立社会保障・人口問題研究所による推計から算出。

神奈川県
認知症の人と家族を支えるマーク



2 認知症とともに生きる 社会づくり



第9期かながわ高齢者保健福祉計画

2024（令和6）～2026（令和8）年度

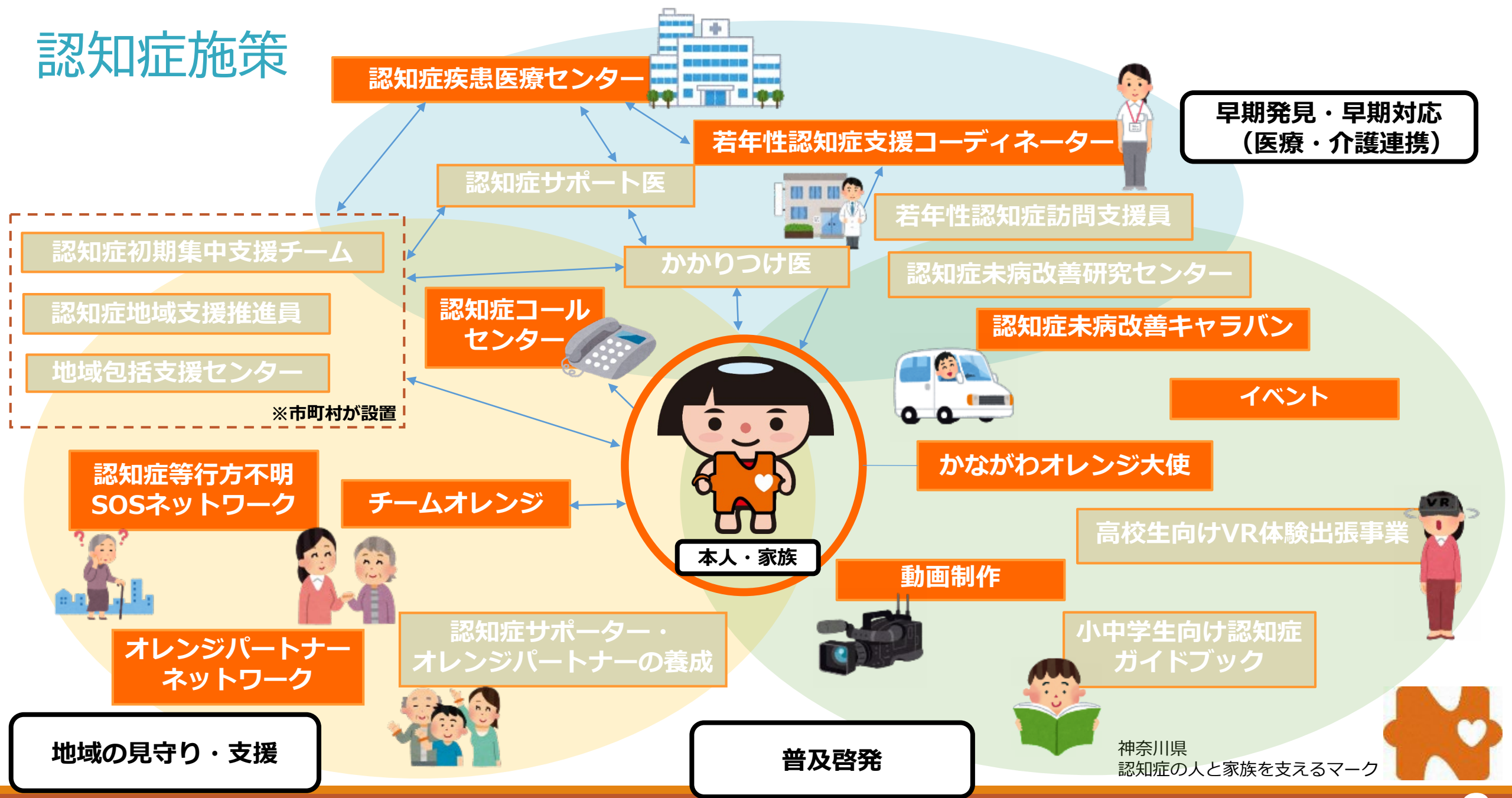
- ・認知症基本法で定める都道府県計画に相当するものを、本計画内に位置付け
- ・施策の柱は次の7つに整理

- 1 認知症の人に関する理解の増進等
- 2 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進
- 3 認知症の人の社会参加の機会の確保等
- 4 認知症の人の意思決定の支援及び権利利益の保護
- 5 保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備等
- 6 相談体制の整備等
- 7 認知症未病改善の推進及び調査研究等

神奈川県
認知症の人と家族を支えるマーク



認知症施策



認知症疾患医療センター

専門医療相談窓口を設け、電話や面接による治療など医療についての相談に対応しています。

- 神奈川県認知症疾患医療センター 10箇所
- 横浜市認知症疾患医療センター 9箇所
- 川崎市認知症疾患医療センター 4箇所
- 相模原市認知症疾患医療センター 2箇所



圏域別一覧

早期発見・早期対応
(医療・介護連携)

設置二次保健 医療圏域名	設置箇所	類型	設置 年月日
横須賀・三浦	国立病院機構久里浜医療センター	地域拠点型	H24.1
県央	厚木佐藤病院	地域拠点型	H29.10
	たなかクリニック	連携型	R4.4
	えびな脳神経クリニック	連携型	R5.4
湘南東部	湘南東部総合病院	地域拠点型	H29.6
	藤沢病院	連携型	R5.4
湘南西部	東海大学医学部付属病院	地域拠点型	H22.1
		基幹型	R6.6
	秦野厚生病院	地域拠点型	R6.6
	メモリーケアクリニック湘南	連携型	R4.4
県西	曽我病院	地域拠点型	H26.7



若年性認知症支援コーディネーター

- 若い世代の方が、認知症になった場合、就労のことや、経済的なことが問題となります。
- 適切な支援を受けられるように、「若年性認知症支援コーディネーター」を配置し、個別に相談を受けたり、訪問等により支援します。

神奈川県
もしかして
若年性認知症?
記憶に不安を感じたら

若年性認知症とは

「若年性認知症」とは、65歳未満で発症した認知症のことです。
若年性認知症の方は仕事、家事、子育て世代に発症することが多く、我が国で働いている場合、若年性認知症を理由に退職しようとする経済的に困ってしまいます。しかし、**退職前に若年性認知症支援コーディネーターに相談することで、仕事を継続できる可能性があります。**

神奈川県の取組

神奈川県では、若年性認知症の人やその家族等の相談に対応し、支援に携わる者同士のネットワークの調整を行う、**若年性認知症支援コーディネーター**を配置しています。
ご本人やご家族等からの若年性認知症に関する困り事や悩み事等の相談に対して、**解決に向けた支援**をします。

神奈川県内の若年性認知症支援コーディネーター相談先
※受付していないくても、相談することができます。

名称	相談エリア	電話番号
国立病院機構久里浜医療センター	横浜・三浦	046-848-1550 (代表)
養賢病院 (福祉医療相談室)	湘南西部、東西	0465-42-1630 (代表)
湘南東部総合病院	湘南東部、東央	0467-83-9111 (代表) 0467-83-9091 (医療社会サービス部)
横浜ほうゆう病院 地域医療連携室 若年相談窓口	横浜	045-360-8787 (代表)
横浜国立大学附属病院 認知症疾患医療センター	横浜	045-787-2852 (直通)
横浜市民総合保健医療センター 診療所 総合相談室	横浜	045-475-0105 (直通)
横浜総合病院 若年性認知症相談窓口	横浜	045-903-7106 (直通)
川崎幸クリニック 若年性認知症相談窓口	川崎	044-544-1020 (代表)
かわさき記念病院 若年性認知症相談窓口	川崎	044-977-3100 (直通)
北里大学病院 若年性認知症相談窓口	相模原	042-778-8658 (直通)

若年性認知症支援コーディネーターの連絡先等詳細はこちら
神奈川県HP認知症の相談窓口



認知症コールセンター

早期発見・早期対応
(医療・介護連携)

地域の見守り・支援

認知症介護の経験者等が、認知症の人や家族等からの介護の悩みなど認知症全般に関する相談を電話で行っています。

- **かながわ認知症コールセンター**

☎ 045-755-7031 月・水曜10:00～20:00
土曜10:00～16:00(年末年始を除く)

- **よこはま認知症コールセンター**

☎ 045-662-7833 火・木・金曜10:00～16:00(年末年始を除く)

- **川崎市認知症コールセンター「サポートほっと」**

☎ 044-932-0341 月・火・木・金曜、第1・第3日曜10:00～16:00
第2・第4木曜10:00～20:00(祝日、年末年始を除く)

- **若年性認知症コールセンター**

※厚生労働省が認知症介護研究・研修大府センターに委託
☎ 0800-100-2707 月・火・木・金・土曜 10:00～15:00
水曜 10:00～19:00(祝日、年末年始を除く)



認知症等行方不明SOSネットワーク

行方不明の搜索・発見・通報・保護や
見守りに関するネットワークを県が
市町村と連携して構築

○ 市町村の役割

事前登録

○ 県の役割

県警察への事前登録の推進

市町村ネットワーク間の情報共有

ご存知ですか？
認知症等行方不明SOSネットワーク

神奈川県が警察に届出のあった認知症の方の行方不明者が増加しています。2025年には、認知症高齢者数が、65歳以上の高齢者の5人に1人に達すると見込まれるなか、県と市町村が「神奈川県認知症等行方不明SOSネットワーク」を運営しています。

神奈川県認知症等行方不明SOSネットワークとは
認知症等で行方不明になった方の捜索について警察と連携し、地域の方や関係機関の協力を得て、一刻も早く発見して自宅等に帰っていただく、また、保護された方の身元がわかるまで安心して過ごせるように一時的に施設等でお預かりする仕組みです。

事前登録について
事前に、名前や連絡先、身体の特徴等を登録しておくことでSOSネットワークによる速やかな発見が可能になります。登録方法（登録に必要な書類や、お申し込み先等）については、お住まいの市区町村にお問合せください。

認知症の方の情報を市町村に事前登録しておく、スムーズな発見につながります。
ぜひ、事前登録してください！

神奈川県福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課
〒231-8588 横浜市中区日本大通1 電話：045-210-4846（直通）



認知症サポーター



認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人やその家族に対して温かい目で接する「**応援者**」

認知症は誰でもなる可能性があり、
「**自分自身の問題である**」という認識
を持つことが大切です。

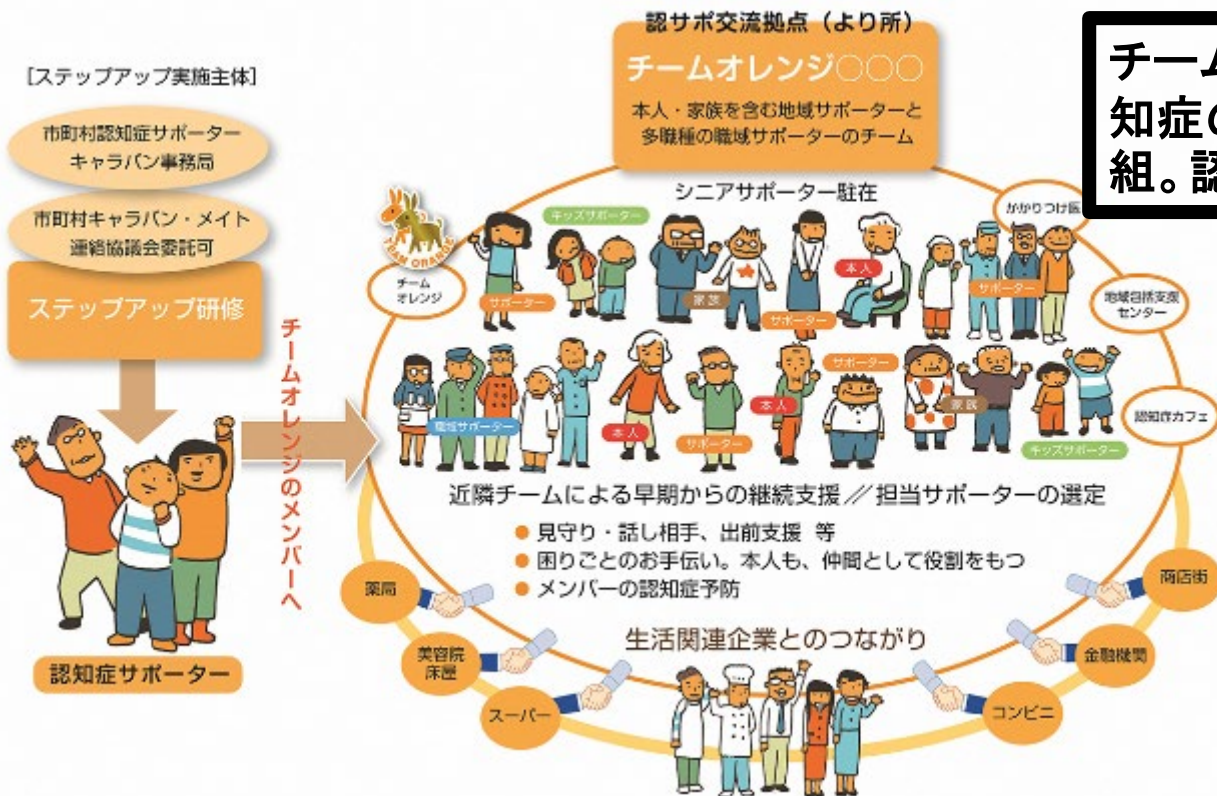
県内 857,862人（令和6年12月末時点）



チームオレンジ

地域の見守り・支援

チームオレンジ: 近隣の認知症サポーターがチームを組み、認知症の人や家族に対する生活面の早期からの支援等を行う取組。認知症の人もメンバーとして参加。



チームオレンジの三つの基本

- ①ステップアップ講座修了及び予定のサポーターでチームが組まれている。
- ②認知症の人もチームの一員として参加している。
- ③認知症の人と家族の困りごとを早期から継続して支援ができる。

- 認知症を正しく理解し、認知症の人とその家族の応援者の認知症サポーターから、一歩進んでそれぞれの地域では、認知症カフェやサロンを開いたり、傾聴や見守りなどの活動を自らの意思で行っているサポーターが誕生しています。
- こうしたサポーターの任意性の活動を尊重しつつ、認知症の人や家族の支援ニーズと認知症サポーターを中心とした支援をつなぎ、認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくりの具体的活動が「チームオレンジ」です。

出典: 特定非営利活動法人地域共生政策自治体連携機構「認知症サポーター チームオレンジ 運営の手引き」

神奈川県
認知症の人と家族を支えるマーク



認知症オレンジパートナーネットワークウェブサイト

地域の見守り・支援

<https://www.pref.kanagawa.jp/osirase/1393/orange-partner/index.html>



- ・オレンジパートナーネットワーク:個人、団体の支援者、活動拠点と企業・行政が連携し、安心して暮らせるよう支援を推進していく取組。
- ・ウェブサイトにより個人の支援者とボランティア活動の場をマッチング、ウェブサイト登録者を「オレンジパートナー」と呼ぶ。

ボランティア
活動する場所を
探したい！

色々な人と
意見交換を
したい！

様々な
活動の場を
探したい！



神奈川県
認知症の人と家族を支えるマーク



かながわオレンジ大使

- 認知症の本人大使が年間60件以上の講演等の依頼を受け、県内各地で活動

無意識のうちに先入観
にとらわれていたこと
に気がきました

本人の気持ちの確認が
大切だと、あらためて
認識できました

いろいろな人、特に
10代若い世代に聞
いてほしいです

好きなことをやっていき
きと生活することの大切さ
を教えてくださいました

出来る限り続けて、
メッセージを発信して
下さい

本で読んだりして知って
いたつもりだが、より実
感した感じです

個人個人の病気の捉え方
によって、人生は変わる
のだなと思いました



オレンジ大使活動中！

普及啓発



オレンジ大使ご夫妻
作成



認知症当事者と企業、高校生との連携

普及啓発



令和7年3月18日オレンジ大使や企業との交流会で「認知症すごろく」を発表する県立横須賀高校生徒



令和7年3月18日オレンジ大使や企業との交流会で商品に意見を伝える認知症当事者



2024年9月28日開催！
来場者数6,000人越え！

認知症月間 かながわオレンジデー



認知症未病改善キャラバン

- 神奈川県内全自治体（33市町村）へ巡回訪問し、**認知症未病改善をPR**
- 巡回訪問先は、県内各地の市町村庁舎、地域包括支援センター、公民館、医療・介護関係機関、診療所、未病センター、ショッピングセンター、大学、企業等の**50か所以上**

登載機器例



キャラバンカー



【イメージ図】



認知症未病改善キャラバンの様子



認知機能評価体験



eスポーツ体験



かながわオレンジ大使に聞いてみました
(メッセージ動画)



かながわオレンジ大使

検 索



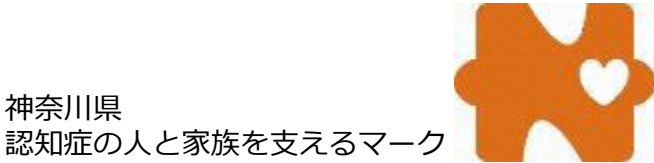
今後の課題

○ 県が実施した「認知症施策評価のためのアンケート調査」の2022年度（令和4年度）の結果では、認知症の人ご本人で「自分の思いが尊重されていると思う」と回答した方は59%で、第8期計画で定めた指標を上回ったが、認知症の理解に関する質問では、指標を達成することができず、理解促進について課題がある

内容	(年度) 第8期計画		第9期計画（目標）		
	2022 (実績)	2023 (見込み)	2024 (令和6)	2025 (令和7)	2026 (令和8)
県のアンケート調査において、認知症の人本人が「自分の思いが尊重されていると思う」の問いに対して「とてもそう思う」「わりとそう思う」と答える人の割合	59.2%	59.6%	60%	62%	64%

○ 認知症に関する正しい知識と、正しい理解を深め、共生社会の実現に向けた取組を進めていく必要がある。

指標		現状	目標
県のアンケート調査において、認知症の人が「周りのすべての人が、認知症を正しく理解してくれている。」と答えた割合		2022年 48% (令和4年)	2026年 65% (令和8年)
指標の考え方	同調査において、「周りのすべての人が、認知症を正しく理解してくれている。」との問いに「とてもそう思う」「わりとそう思う」と答える人の割合を、認知症に関する理解促進などを進めることで、令和8年に65%とすることを目標とします。		



本日お伺いしたいこと

- 認知症本人発信を進める効果的方法や好事例の情報提供
- 認知症未病改善について広く知っていただくための効果的方法や好事例の提供
- そのほか、認知症とともに生きる社会づくりについてのご意見や好事例の情報提供

